

## <穿刺液・胸水・腹水・関節液等>

- ・ 胸水、腹水等の体腔液はフィブリン析出を防ぐ為、抗凝固剤（検体 1mL に対して、ヘパリンの場合 0.01 ～ 0.1 mg、EDTA の場合 1 mg、3.8%クエン酸ナトリウムの場合 0.1mL、フッ化ナトリウムの場合 5 ～ 10 mg）を添加してください。また、細胞診と同一検体で EGFR 検査の依頼がある場合は、ヘパリンは使用しないでください。
- ・ 液状検体の場合は採取後、直ちに 2,500 回転 3 分（髄液は 1,500 回転 5 分）遠心し、沈渣をスライドガラスに塗抹後、95%エタノールに 30 分以上浸し、乾燥させずに固定剤で固定した上で、ご提出ください。  
尚、細胞が少ないと思われる場合はスライドガラスに塗抹後、直接固定剤を滴下するか噴霧してください。